15 バックアップ

iStorage NS は大容量ボリュームを多人数のユーザーが使用するという性質上、データの安全性には十分に留意する事をお勧めします。データの安全性を保つには、定期的かつこまめなバックアップが必要不可欠です。iStorage NS には標準で、テープ装置にバックアップを行うバックアップツールが付属しています。またオプションとして、VERITAS NetBackup、VERITAS BackupExec といったバックアップソフトウェアをお選びいただけます。多くのテープデバイスに対応し、様々なバックアップ設定が可能なこれらのバックアップソフトウェアをお選びになることをお勧めします。

<運用例>

・ ファイル更新などの無い夜間等にバックアップをスケジューリングするか、もしくはそのような時間帯に手動でバックアップ対象フォルダ等を指定して、テープ媒体等へバックアップを行う。
・ 別オプションでオープンファイルオプションを利用して、iStorage NS のファイルサービスを運用しながらバックアップを取る。

このような運用は、例えば、毎週日曜日にバックアップをスケジューリングしておき、対象のデータ領域を決められた日時にテープ媒体等にバックアップしておき、万一の Disk 障害時に、バックアップ時点へデータを戻すという形になります。
各バックアップソフトの詳細なインストールやバックアップ手順に関しては、各ソフトウェアの説明書をご参照下さい。

固定記憶域マネージャ機能で作成される固定イメージをバックアップすることはできません。バックアップを行う際は、固定イメージではなく、実データをバックアップ対象に指定して下さい。

VERITAS NetBackup、VERITAS BackupExec における Intelligent Disaster Recovery はご利用いただけません。

iStorage NS シリーズにおいてオプションソフトをインストール・設定する場合は、管理用 PC から WebUI を起動し、ターミナルサービスを使用して行ってください。

15.1 WebUI による標準バックアップ

15. 1. 1　バックアップ

① WebUI を起動し、プライマリナビゲーションバーから[メンテナンス]を選択し、その後、[バックアップ]をクリックします。

> 終了する際は、「ジョブ－バックアップの終了」メニューで終了してください。ウィンドウ右上の[×]を押して終了しないようご注意ください。

② [Windows へログオン]ダイアログボックスが表示されます。ログオンして下さい。

③ [バックアップ] ウィンドウが表示されますので運用にあった設定を行って下さい。ツールの使用方法については、「ヘルプ」メニューよりヘルプを参照してください。

<u>バックアップに関する注意事項</u>

1. [メンテナンス－バックアップ]にて iStorage NS にログオンすると、通常、バックアップ画面を開きます。ただし、ブラウザの環境により、[Cannot access this program in the current browser zone]とメッセージが表示され、ターミナルサービスにて接続した状態となることがあります。この場合は、[スタート－プログラム－Accessories－System Tools－Backup]を起動してください。また、WebUI を使用する際に、ブラウザの URL 入力欄（[アドレス] または [場所] など）に IP アドレスを指定して使用されている場合は、一度、WebUI を終了します。ブラウザを再起動後、URL 入力欄に以下のように iStorageNS のコンピュータ名を指定し、WebUI を使用できる状態になった後、改めて同様の処理を行うと、正しくご利用できるようになることがあります。

   「http://コンピュータ名:8099/」または「https://コンピュータ名:8098/」

2. ターミナルサービス領域に入っての設定画面を同時に開いたままの状態にはできません。このため、[ディスク－ディスクとボリューム] 、[ディスク－GAM クライアント]、[ディスク－Power Console Plus] 、[ネットワーク－NIC の構成] 、[メンテナンス－バックアップ] 等にて、iStorage NS にログオンしようとした際に以下のメッセージを表示する場合があります。この場合は、[ディスク－ディスクとボリューム] や[ディスク－GAM クライアント]、[ネットワーク－NIC の構成] 、[メンテナンス－バックアップ] 等にて Disk Management 画面や Global Array Manager 画面、Power Console Plus 画面、Intel PROSetII 画面、バックアップ画面を終了してください。その後、同様のメッセージが表示される場合は、一度ブラウザを終了した後しばらく経ってから操作を行ってください。その後にもメッセージが表示される場合は、iStorage NS を再起動してください。

   －The terminal server has exceeded the maximum number of allowed connections.
   (ターミナルサーバーは許可された最大接続数を超過しました)

－システムにログオンできません(1B8E)。再実行するか、システム管理者に問い合わせ
てください。

15.1.2　リストア（復元）

（リストア前の注意）

テープ内のデータを復元先に上書きする必要がある場合、[バックアップ]ウィンドウの[ツール]メニューの[オプション]をクリックし、[復元オプション]タブより、[常にディスク上のファイルを置き換える]を選択し、[OK]をクリックして下さい。

① 前節の手順で[バックアップ]ウィンドウを表示させます。
② [バックアップ]ウィンドウの[復元]タブを選択して下さい。
③ リストアをするドライブ、フォルダ、または、ファイルを選択して下さい。
④ [復元の開始]をクリックして下さい。
⑤ [復元の確認]ダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックして下さい。
⑥ [復元の進行状況]ダイアログボックスが表示されます。リストアが完了したら[閉じる]をクリックして下さい。

15.2 VERITAS Backup Exec および VERITAS NetBackup の使用

1. 上記バックアップソフトウェアのインストール・使用に関しては、各バックアップソフトウェアの説明書、オンラインヘルプ等を参照してください。

2. iStorage NS において上記バックアップソフトウェアのインストール・設定等は、管理ＰＣより WebUI を起動し、ターミナルサービスを使用して行ってください。

3. VERITAS NetBackup のパッチは VERITAS 社のサイトで公開されています。必要なパッチをダウンロードの上、バックアップサーバー、及び、バックアップクライアントに必ず適用してください。
なお、英語版 NetBackup、及び、日本語版 NetBackup はそれぞれ専用のパッチがあります。
注意：日本語版の NetBackup に英語版用のパッチを適用した場合、または、英語版の NetBackup に日本語版用のパッチを適用した場合の動作は保証されません。

（1）パッチの入手方法
営業または販売店にご相談ください。

（2）適用済みのパッチＩＤ確認方法
History.log を参照してください。
ログの場所はインストールディレクトリ(例:C:¥Program Files¥VERITAS¥)の下にある Patch フォルダに保存されています。

16 ウィルスチェック

iStorage NS は、多人数のユーザーにより使用されることが多いため、ウィルスに対する備えをしておくことが重要です。ファイルの安全性を保つには、定期的なウィルスチェックを行うことが重要です。iStorage NS では、オプションソフトウェアとして、以下のソフトウェアをお選びいただくことで、iStorage NS のウィルスチェックを行うことが可能です。

Trend Micro ServerProtect

オプションソフトウェアに関する詳細は、各ソフトウェア製品に添付の説明書をご参照ください。また iStorage NS のホームページ上にも公開情報がありますので、そちらもご参照下さい。

iStorage NS シリーズでは、ソフトウェアのインストール・設定等はターミナルサービスを使用して行ってください。

ServerProtect に関する注意事項

1. ServerProtect でウィルス検索を行う際は、すべてのドライブの snapshots フォルダを対象外と設定してください。
2. ServerProtect をインストール直後の既定値として、毎週金曜日の午前 2:00 から全ファイルスキャンしウィルスをチェックするように設定されています。全ファイルをスキャンすると、数時間 CPU を高使用率で使用することがあります。利用環境に合わせて設定を変更してください。

17 電源管理

UPS を接続することにより、スケジュールによる電源 ON/OFF 機能、電源障害時のシャットダウンなど、無人でのサーバーの安全な運用を実現します。iStorage NS では、以下のソフトウェアをオプションとして導入することにより、UPS と連携した電源管理を行うことが可能です。

(1) SNMP カードを実装した UPS をネットワークで接続した環境で利用する場合

・ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2（以下 ESMPRO/AC と略します）

・ESMPRO/AC Enterprise Ver3.1

(2) UPS をシリアルケーブル（UPS インタフェースキット）で接続した環境で利用する場合

・ESMPRO/UPSManager Ver2.0（PowerChute Business Edition セット）

オプションソフトウェアに関するインストール・設定等は、各ソフトウェア製品に添付の説明書をご参照ください。

iStorage NS シリーズでは、ソフトウェアのインストール・設定等はターミナルサービスを使用して行ってください。

《BIOS のセットアップ》

iStorage NS21P/NS22P/NS41P/NS42P/NS420/NS610/NS810G では、『AC-Link』 の設定を「Power On」（既定値：Last State）に変更してください。

iStorage NS410 では、『After Power Failure』 の設定を「Power On」（既定値：Last State）に変更してください。

「Last State」の設定の場合、機種によっては（APM に対応したサーバー）OS シャットダウン後 iStorage NS は AC-Off となり、UPS の電源供給の ON/OFF によるサーバー起動ができなくなりますので、BIOS の設定を上記のように変更してください。

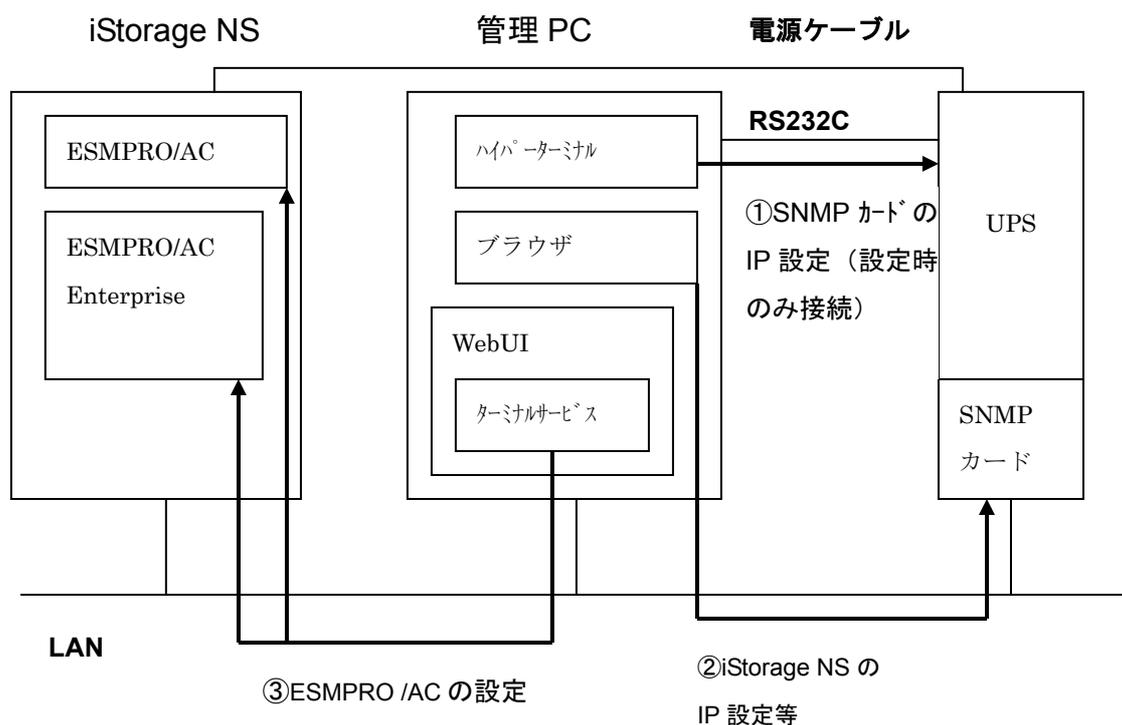
なお、BIOS の設定変更の方法については装置添付のユーザーズガイド（取扱説明書）を参照してください。

注意：『AC-Link 』または『After Power Failure』の設定を「Power On」にすると、電源ケーブルを接続するだけで iStorage NS の電源がONになります。

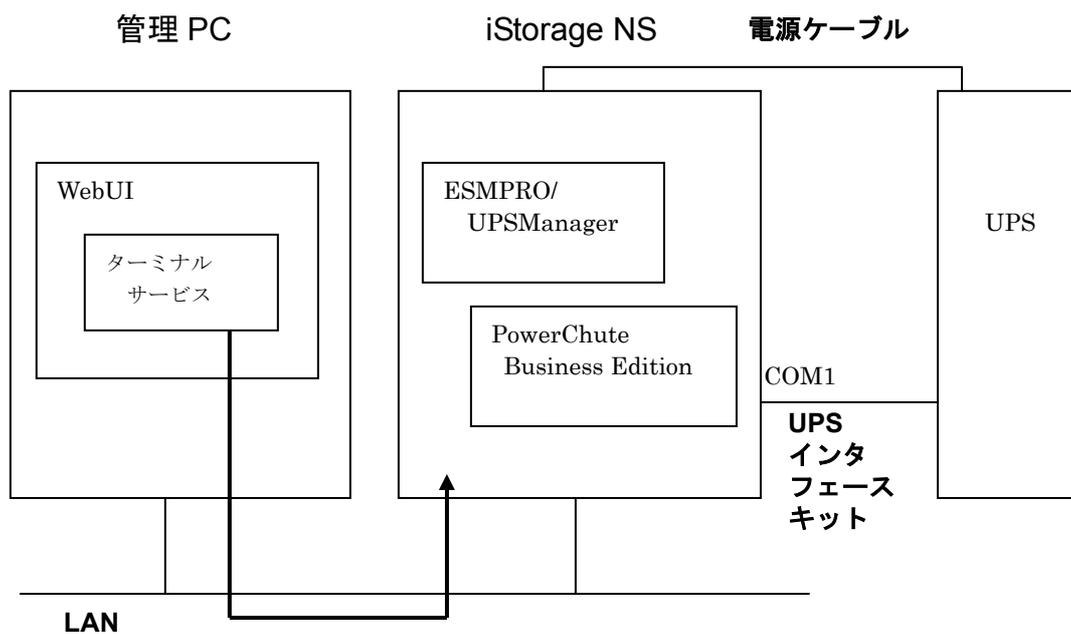
17.1 ESMPRO/ AutomaticRunningController の利用

基本的な設定

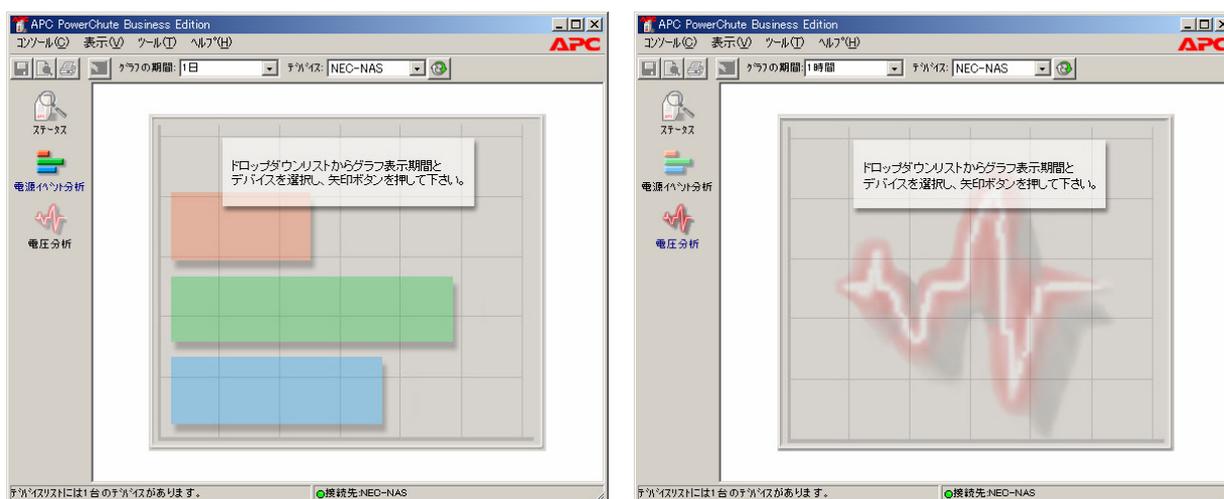
・ ESMPRO/AC によるスケジュール運用

設定されたスケジュールで、電源の自動投入、切断を行う。

17.2 ESMPRO/UPSManager の利用

<u>基本的な設定</u>

・ ESMPRO/UPSManager による電源管理

《使用可能なシリアルポートについて》
iStorage NS では COM2 が管理用に確保されています。このため UPS と本体装置の接続には COM1 を使用してください。

17.2.1　注意事項

①. ターミナルサービスクライアント上から PowerChute Business Edition コンソールを起動し、「電源イベント分析」および「電源分析」を選択すると、初期画面（下図参照）が正しく表示されない場合があります。これはターミナルサービス画面の色数が少ないために発生するものです。

このときは、ドロップダウンリストからグラフ表示期間とデバイスを選択後、デバイスドロップダウンリストの右横の矢印ボタンを押し、グラフ表示を行ってください。

②. E-Mail 通知機能に関して、メールアドレスに使用可能な文字、記号は以下のものになります。
これ以外の記号については、使用不可となっていますので、ご注意ください。

（使用可能文字・記号）

英数字、「_ 」(アンダスコア)、「.」(ドット)、「@」(アットマーク)、「-」（ハイフン）※1

※1 「-」（ハイフン）について
ブラウザから[イベント] -> [受信者] を選択し、E-Mail 受信者の追加を行う際、[適用]ボタン押下による「-」（ハイフン）を含む E-Mail アドレスの登録が行えません。
「-」（ハイフン）を含む E-Mail アドレスを登録する場合、[適用]ボタンではなく
[リターン]キーを押すことにより登録を行ってください。